



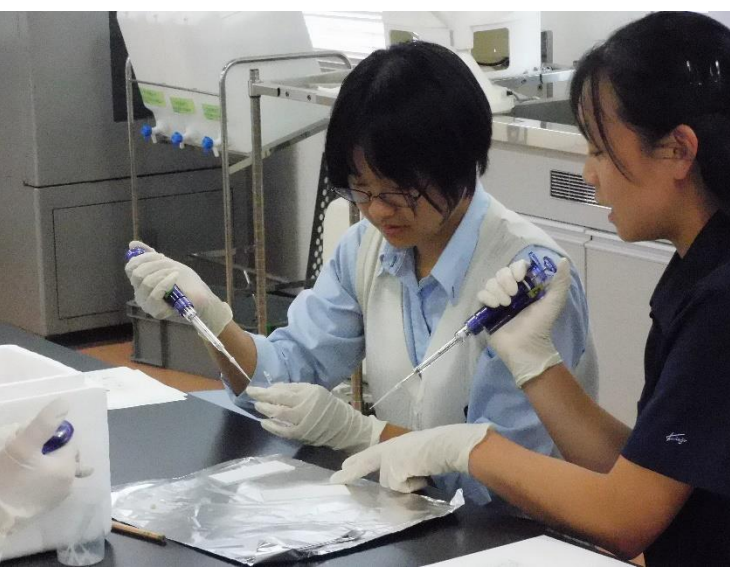
題字 井口 文章
再刊 第491号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2025

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面…獣医高大連携プログラム
関東大会最優秀賞受賞・文藝部
夏の部活動合宿
二面…総文特集！香川の魅力を紹介します！

専門的な設備や実験器具に大興奮！

日本獣医生命科学大学の特別講座に参加



普段は触ることのないマイクロピペットで実験する錦城生

今年の春に錦城が連携協定を結んだ日本獣医生命科学大学で、夏休みに錦城生限定の全8講座の特別講座が開かれた。8月の「勉強のストレスを軽減する成分を野菜中の酵素で作れるか実験してみよう」と7月の「魚類の免疫細胞を探ってみよう」の講座に編集部員も参加した。

GABAを野菜から作る

8月22日(金)の講座では、「勉強のストレスを軽減する成分(GABA)を野菜中の酵素で作れるか実験してみよう」という実験を行った。GABAとは、睡眠の質の改善や仕事や勉強などによる一時的なストレスの軽減、高めの血圧を低下させるといった効果を持つことにより、近年注目されている神経伝達物質だ。チョコレートなどのお菓子や機能性表示食品によってよく知られている。実は野菜にも種類によって量の違いはあるがGABAが含まれている野菜は、GABAの量が増えるかどうかを検証した。

実験後、参加した錦城生は、馬込ベクトルより細かい量を正確に測ることができるようマイクロピペット、粉じんや有害な気体を吸引するドラフトなど、小中高校には無く名前を聞いたこともない設備や備品が豊富に取り揃えられていて驚いたと話した。

大学教授の先生方による解説も分かりやすく、私たち参加者が考えを共有しまとめる時間もあったため多くの意見も取り入れられていた。科学的な実験は、参加した錦城生は、馬込ベクトルより細かい量を正確に測ることができるようマイクロピペット、粉じんや有害な気体を吸引するドラフトなど、小中高校には無く名前を聞いたこともない設備や備品が豊富に取り揃えられていて驚いたと話した。

大学教授の先生方による解説も分かりやすく、私たち参加者が考えを共有しまとめる時間もあったため多くの意見も取り入れられていた。科学的な実験は、参加した錦城生は、馬込ベクトルより細かい量を正確に測ることができるようマイクロピペット、粉じんや有害な気体を吸引するドラフトなど、小中高校には無く名前を聞いたこともない設備や備品が豊富に取り揃えられていて驚いたと話した。

実験中、参加した錦城生は、馬込ベクトルより細かい量を正確に測ることができるようマイクロピペット、粉じんや有害な気体を吸引するドラフトなど、小中高校には無く名前を聞いたこともない設備や備品が豊富に取り揃えられていて驚いたと話した。

大学教授の先生方による解説も分かりやすく、私たち参加者が考えを共有しまとめる時間もあったため多くの意見も取り入れられていた。科学的な実験は、参加した錦城生は、馬込ベクトルより細かい量を正確に測ることができるようマイクロピペット、粉じんや有害な気体を吸引するドラフトなど、小中高校には無く名前を聞いたこともない設備や備品が豊富に取り揃えられていて驚いたと話した。

文藝部 関東大会最優秀賞

詩部門受賞「卒業後も書き続けたい」



さいたまの Mascot と記念撮影

8月20日(水)、埼玉県新座市の十文字女子大学で行われた第26回関東地区高校生文芸大会(埼玉大会)で文藝部の藤崎真優子さん(3)が詩部門最優秀賞という輝かしい成績を収めた。

藤崎さんは、この大会の選者でもある詩人マーサ・ナカムラさんの作品「鯉は船に乗って進む」を現代文の授業で扱った時、すごく素敵なお話だと思ったそう。それ以来マーサさんの熱狂的なファンであり、今大会の講演会でマーサさんが普段詩を書くときに心がけていることを聞いて良い学びになったと嬉しそうに語る。藤崎さんは地区大会に作品を提出するまで、読むことは好きだが書くことはあまりなかったそう。しかし、実際に詩集を出されている文藝部顧問の神田先生のおかげで自分にも詩を書くことが向いていると気づき、書きやすくなったので感謝しているという。

大会を終えて、「大会を通して、こういうものが評価されるのかわからないのが詩だと思いましたが、あまり難しく考えずに書いてほしいです」と藤崎さんは後輩を応援した。

3日目は前日に採血し、作成した標本を実際に観察し、生理食塩水を摂取したキンギョと、死菌を摂取したキンギョに含まれる免疫細胞の種類とその数を計測し、違いを調べる実験をした。免疫細胞の観察で顕微鏡をのぞいた瞬間、視界に広がる免疫細胞の数に生徒が驚きの声が上がっていた。キンギョになるべくダメージを与えないよう、細心の注意を払って実験を行ったことが印象的だった。他にも倉田先生は、大学の学習カリキュラムについてや、獣医が世間に求められている活躍などの話をしてくれていた。その中で「この機会を通して、普段できないような研究を提供出来たらうれしい」と語ってくれた。

実験に参加した西村真歌さん(2)は幼い頃から獣医に興味があり、いい機会だと思っ

最近も様々なお店に連絡をとり、撮影会などの予定を立てているという佐藤さん。「2年連続で総文祭に行きたいです」と意気込んで見せ、部員たちについてきてくれて感謝しかないです！これからもよろしくお願いします」とメッセージを送った。

写真部地区大会で10作品が入賞

8月20日(水)から開催された第48回東京都高等学校文化祭写真部門地区大会で、写真部の10作品がそれぞれ最優秀作品2点、優秀賞3点、佳作5点を受賞した。

優秀賞を受賞した部長の佐藤さよさん(2)は、「今年

写真部地区大会で10作品が入賞

8月20日(水)から開催された第48回東京都高等学校文化祭写真部門地区大会で、写真部の10作品がそれぞれ最優秀作品2点、優秀賞3点、佳作5点を受賞した。

優秀賞を受賞した部長の佐藤さよさん(2)は、「今年

写真部地区大会で10作品が入賞

8月20日(水)から開催された第48回東京都高等学校文化祭写真部門地区大会で、写真部の10作品がそれぞれ最優秀作品2点、優秀賞3点、佳作5点を受賞した。

優秀賞を受賞した部長の佐藤さよさん(2)は、「今年

夏休みの合宿レポート 第1弾！

仲間と共に大きく成長

弓道部

8月5日(火)から8月9日(土)の5日間、長野県の白馬にて弓道部の合宿が行われた。1日目と5日目以外は、朝から晩まで弓道に打ち込むという日程の元、行われた今回の合宿ではまだ未熟な1年生や2年生がともに切磋琢磨しあい大きく成長することができた。

小瀧母加さん(1F)は、「白馬村は、冷涼な気候を持つが天気が変わりやすく大雨にうたれる日もあったけど、4泊5日を勉強から離れ、弓道に費やす自分たちや先輩の姿には強く惹かれるものがあった」と合宿を振り返った。

ダンス部

8月3日(日)から8月7日(木)の5日間、新潟県の苗場にてダンス部の合宿が行われた。苗場といえば夏は避暑地として、冬はスキー場として人気のリゾートエリアだ。合宿直後に取材に応じてくれた2Bと2Cの女子部員は、朝は散歩から始まり、1日ダンスの練習だったと少し興奮気味に話してくれた。また、ごはんが素晴らしくおいしかったそう。

みんなでそうめんを食べたことなど実楽しそうに話してくれた2人。合宿から戻ってきて、合宿の熱量はこのまま、さらにダンスに励んでいきたいと意気込んだ。文化祭が控えていることもあり、今だれてしまうわけにはいかないとのこと。ちなみに、文化祭で行う公演内容については今のところ秘密なのだそう。ダンス部の発表はいつも息をのむほど素晴らしいので今から非常に楽しみである。文化祭まで待ち切れない。

手話を覚えよう！②

感謝を伝えることは大事な事です。耳の聞こえない人も私たちが簡単な手話を覚えれば嬉しいと思うので、実際に言葉伝えるために手話を覚えてみると思います。手話だけではなく、お辞儀をして感謝の気持ちを伝えましょう！(榎本先生)

今回、手話を実演してくださったのは、数学科の榎本拓真先生。第2弾で紹介するのは「ありがとう」という意味の手話。手のひらを下に向けた左手の上に右手を添え、右手を上へ上げる動作だ。ありがたそうな表情を浮かべることも気持ちを伝えることにおいて重要なポイント！

2025
かがわ総文

小さな香川の大きな魅力に迫る

かがわ総文班別取材

7月28日(月)から30日(水)にかけて行われた第49回全国高等学校総合文化祭の新聞部門に都代表として参加した新聞委員会。

特集第一弾となる今回は、全国の高校生記者と班ごとに香川県各地に散らばって行われた取材の様子をお届けする。

歴史を紡ぐ善通寺&大墓山古墳

風が参加したコースでは、善通寺市の歴史的な建造物などを巡った。まず訪れたのは善通寺。住職の中嶋さんに説明をしていただきながら、国の重要文化財に指定されている金堂や五重塔、国の登録有形文化財の釈迦堂南大門などを見学。また、寺の歴史や文化を今に伝える貴重な資料を展示している宝物館では、国宝の一字一仏法華經序品や出土した白鳳時代から奈良時代にかけての瓦を展示している。展示は定期的に入れ替えられるため、訪れるたびに新たな発見があるのが特徴だ。



解説をする中嶋さん

続いて王墓山古墳に向かった。全長46mほどもある横穴式石室の前方後円墳だ。普段は立ち入ることができない古墳だが、今回は特別に許可を頂き、中に入るという貴重な体験も。古墳から出土したものが多く展示されている郷土館では豪華は副葬品や金銅製冠帽などを見ることができた。郷土館の大河内義雅さんは「歴史を紡ぐという意味が遺物を今日までつないでいます」と歴史を守ること

丸亀城の石垣に迫る

燕が参加したコースでは、「丸亀城の文化財を巡る」をテーマに、丸亀城の石垣復興について学ぶと同時に、丸亀市の伝統工芸品の丸亀うちわを実際に制作するという貴重な経験をした。

香川県丸亀市に築かれている丸亀城は日本一の高さを誇る「石垣の名城」として有名であるが2018年に起きた西日本豪雨や連続する台風の影響によって計3回にわたり石垣が崩落し、現在も積み上げ作業が続いている。丸亀城の復興工事をしている真鍋さんは「石垣が崩落した後に判明した事実もあり、今は石垣修復工事の状況について知ってもらえるような取り組みを行っています」と話してくれた。

丸亀うちわは江戸時代から製作されている伝統工芸品であり、朱赤色で中央に「丸金印」と呼ばれるデザインが施されているのが特徴である。また、丸亀うちわは丸亀藩が武士に内職として奨励していたこともあり、丸亀市の地場産業として地域と強い結びつきがある。

丸亀うちわ職人の長谷川さんは「本来日本にしか存在しない『うちわを仰ぐ』という行為を世界に広めたいです」と語ってくれた。



実際に制作したうちわ

プロから学ぶしょうゆ製造&手袋産業



職人さんから学ぶ

藤が参加したコースでは、東かがわ市にある醤油蔵のかめびし屋、手袋工場の江本手袋へ取材を行った。初めに訪れたかめびし屋は、今年で創業272年となる伝統的な醤油蔵。「むしろ麹法」という製法で醤油を作っており、国内でこの製法を使用している醤油蔵は他に無いという。職人の廣瀬和也さんは、手作業の多い製法を続けることで自社の価値を見出しているのだと語る。

続いて訪れた江本手袋は、地域復興のため、2018年にオリジナルブランド「佩」(はく)を立ち上げた。東かがわ市における手袋産業は130年もの歴史があり、伝統的な手作業での製法を「佩」に取り入れているという。そんな江本手袋の3代目江本昌弘さんは、手袋産業をエンタメだと考えているそうで、東かがわ市を観光地化することで地域復興を目指しているのだと語る。また、工房では見学・体験を受け付けており、取材班は制作過程の一部を体験させていただく事ができた。生地に糸を縫い付けていく工程では、生地が柔らかいが故に縫う速度や抑え方を調節しなければならず、職人の技術の繊細さを感じることができた。(藤)

桃が参加したコースでは、観音寺市にある銭形砂絵と、三豊市にある父母ヶ浜を訪れた。銭形砂絵では長年ボランティア活動をされている森さんと辻さんのお話を、父母ヶ浜では市の石井紫さんから話を聞くことができた。

今では日本のウユニ塩湖として有名な父母ヶ浜のある三豊市。しかし、2017年以前はあまり知られておらず、観光客は年間5500人程度だった。その後、フォトコンテストに応募された父母ヶ浜の写真から、豊かな自然を生かした「絶景のまち」として売り出すことを決めたという。もともとは水族館を作ろうとの案もあったそうだが、「私たちの故郷を世界に誇れる場所に」というスローガンのもと、ありのままの三豊市でプロモーション。2022年には51万人もの観光客が訪れ、宿泊者数も2倍に増加。産業が誕生し、まちなかが再生したそうだ。

実際に訪れた滋賀県立甲西高等学校の鈴木隆大朗さん(2年)は、誰も見向きもしなかった地域が世界で評価されていることから地方自治体の底力を知れたと微笑み、「俺たちの市ももっと盛り上げられるんじゃないかと思いました」と話してくれた。(桃)



エモい写真を狙って

梟が参加したコースでは、香川県で2番目に小さい町・琴平町を取材した。最初に訪れたのは旧金毘羅大芝居。金丸座とも呼ばれる現存する日本最古の歌舞伎の芝居小屋で、国の重要文化財にも指定されている。ガイドの方の説明を受け実際に舞台の下に入り、舞台中央が回転する『廻り舞台』や、役者が下からせり上がる『奈落』などの仕掛けを見学した。

次に訪れたのは、五人百姓 池商店。約800年続く歴史のある飴屋で、加美代飴という溶けにくい飴やそれを使ったスイーツを販売している。28代目当主の池龍太郎さんはもともと家業を継がず行政で働いていたが、コロナで地域の店が廃業して危機感を抱いたために家業を継いだのだという。池さんは観光庁に任命された香川県観光地域づくりマネージャーでもあり、旅行説明会などで琴平町の魅力を伝える仕事も行っている。池さんは「一度僕の話聞いた人は誰でも、家族や友達に琴平町の魅力を伝えられる『小さな観光大使』です。そんな『小さな観光大使』を増やしていきたい」と笑顔で語った。(梟)



加美代飴を使ったスイーツを頂く



美味しくなあれ、美味しくなあれ!

椿が参加したコースでは、香川県の讃岐うどんに関する歴史や文化を学び、うどんの原型と言われている「ハクタク」をつくる体験をした。最初に香川県農業試験場に伺い、「さぬきうどん研究会」の顧問の諏訪輝生さんから讃岐うどんの歴史や文化をお聞きした。「全国のうどんにはそれぞれ良い点があるから、一番は決められないです」と諏訪さんは語る。香川県農業試験場の方からは「さぬきの夢」という讃岐うどんのために作られた小麦の品種改良の歴史を学んだ。

次に滝宮公民館に訪れた。そこでは、「綾川町さぬきうどん研究会」の方々からハクタクの作り方を教わった。ハクタクとは、小麦粉と塩水を混ぜた塊を薄い円形にしたものである。自分たちで作ったハクタクには、いろいろなトッピングをしていた。梅干しをトッピングすることには驚いたが、意外に美味しかった。本場の讃岐うどんを食べることができた。(椿)



全国の仲間たちと力を合わせて、新聞制作! 大会会場で、互いの力を合わせ、より良い紙面になるように協力した。

「絶景のまち」としてプロモーション

「小さな観光大使」を増やしていきたい

本場の讃岐うどんを味わう